

## 板橋区基本構想審議会 要点記録

会議名	第 11 回板橋区基本構想審議会
開催日時	令和 7 年 7 月 28 日（月）午後 6 時から午後 8 時まで
開催場所	板橋区役所 11 階 第一委員会室
出席者	<p>〔委員〕 28 人（敬称略）          内藤二郎（会長）、岸井隆幸（会長代理）、大塚隆志、木村政司、許俊鋭、佐藤知正、槌田博文、野澤祥子、相田義正、榎本藤二、加藤勝一、小林英子、齊藤得彌、関口雅美樹、高田修一、堂本航一、坂東愛子、福司慶子、木村縁理、辻内孝昌、濱崎希歩、田中しゅんすけ、田中いさお、おなだか勝、小林おとみ、佐々木としたか、成島ゆかり、長沼豊（欠席：3 人）</p> <p>〔幹事〕 15 人          篠田政策経営部長、田中総務部長、遠藤危機管理部長、平岩区民文化部長、家田産業経済部長、三浦健康生きがい部長、長嶺保健所長、丸山福祉部長、関子ども家庭部長、雨谷資源環境部長、内池都市整備部長、田島まちづくり推進室長、宮津土木部長、林教育委員会事務局次長、金子地域教育力担当部長</p> <p>〔事務局〕 小島政策企画課長、保泉経営改革推進課長、大森政策経営部参事（財政課長）</p>
会議の公開（傍聴）	公開
傍聴者数	2 人
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和 7 年度区民意識意向調査 調査結果の速報について</li> <li>2 多様な区民参画による意見聴取等の結果について</li> <li>3 その他</li> </ol>
配付資料	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 板橋区基本構想審議会工程表</li> <li>2-1 令和 7 年度区民意識意向調査 調査結果の速報について</li> <li>2-2 令和 5 年度区民意識意向調査結果の概要について（参考資料）</li> <li>3-1 いたばし子どもワークショップについて</li> <li>3-2 子どもアンケートの結果について</li> <li>3-3 大学生ワークショップについて</li> <li>3-4 モニターアンケートの結果について</li> <li>4 基本構想審議会答申（案）</li> </ol>
政策企画課長	<p><b>開会</b></p> <p>ただいまから第 11 回板橋区基本構想審議会を始めさせていただきます。まずは、会長から、ごあいさつを頂戴する。</p>

会長 暑い中お集まりいただき、感謝申し上げます。前回、答申(案)について大きな問題がないことを確認し、順調に進んでいると理解しているが、いよいよ大詰めである。今回は、答申をまとめるにあたり、我々にとって参考資料となる区民意識意向調査の結果や区民参画による意見聴取を事務局に紹介してもらうことがメインとなる。

新たに委員になられた方については、お気付きのことがあれば、教えていただきたい。本日もよろしく願います。

(政策企画課長から配付資料の確認。以降、会長進行)

### 1 令和7年度区民意識意向調査 調査結果の速報について

(政策企画課長から資料2-1、2-2について説明)

会長 調査結果の速報であることから、この資料では、全ての項目に触れられてはいないが、このように考えている方が多いという最新の全体像がある程度読み取れると思う。

資料2-2 令和5年度の区民意識意向調査の結果と比較すると、あまり大きな変化はないが、それぞれの項目で肯定的な意見が広がっている。答申に直接関連しないものでも構わないが、質問や意見があれば何う。

委員 資料2-1の2ページを見ると、住み心地が良い、今後も住み続けたいという意見が多く、やはり板橋は良いところだと感じたが、転出が多いことが課題であるとこれまで審議会でも話題になった。住み続けたい、良いところ、子育て支援も手厚いという評価を得ながら、それでも転出してしまうという現状を改めて考える必要を感じた。

会長 住み続けたいが、転出しければならないなど、転出の理由も様々だと思うが、板橋で暮らしたい人が増えることは好ましいことである。

委員 今回の調査で、パーセンテージが上昇している項目が多かったことは、この数年間の行政の取組の成果だと思う。

区内での増減だけでなく、23区でアンケートを取り、項目別に他区と比較することも大事だと思うが、どのようにお考えか。

政策企画課長 現状、他区との比較はしていないが、設問内容や調査の時点の違いはあれ、他区でどのような傾向が出ているかを見ることはできるので、今後基本計画をつくっていく上で、参考にし、調整していきたい。

会長 それぞれの区で実施している調査の結果を共有し、意見交換しても良いかもしれない。区の取組を充実させたり、広めたりするためにもそのような取組があっても良いのではないか。

委員 前回と比較して、全体的に数値が上がっている印象がある。その中で、資料2-1の5ページの区の情報発信について平成29年度の14.8%から32.7%と大幅に上がっているが、「どのように情報を得ているか」を

見ると、広報いたばしや区のホームページが上位で、SNSや公式LINEが上位5項目に入っていない。今は、ホームページが古いと感じる時代になりつつあるので、SNSや公式LINEをどう活かして発信していくかを考える必要がある。

基本構想についても、伝わらなければ意味がないので、この結果を参考にしっかりと区民全員に伝える工夫をしていく必要がある。

会長 これまで我々が議論してきたことを区民に広く知ってもらうために、表現やツールを工夫することが課題である。宣伝だけでなく、区の実情を伝える、こういう意識持ってほしいと説得する役割も含め、伝え方が非常に大切である。

Web回答が増加しているが、回答率や該当する属性にも目を配りながら進める必要がある。平成29年度から大幅に上昇している理由なども調べる必要がある。そのように状況が変化することも踏まえ、デジタルをどのように活用していくかが重要である。

委員 SNSなどの新しい方法を使っただけの広報も大事だが、町会・自治会の回覧版が22.2%であり、この数字を上げることが、地域をつくること、地域の住民の意識を醸成していくことに繋がる。町会・自治会の会員を増やすことを大事にしていくべき。

会長 各町会・自治会でもいろいろと工夫されていると思うが、デジタルを使わない人にもきめ細かな対応が必要だということは区も意識しておく必要がある。

委員 6ページの区が持続的に発展していくために、今後、力を入れるべきだと思う分野は、子育てが46.0%で一番多く、回答者の年齢分布を見ると、今現在、子育てをしている方たちが、回答したのだと思われる。すでにCAP'Sやあいキッズなど、子育てに手厚いと思うが、この項目が選択されている理由がわかれば知りたい。

政策企画課長 設問の設定として、項目を選択していただくのみで、掘り下げた質問はしていないため、選択理由までは把握していないところ。

委員 今後調査する予定はあるか。

政策企画課長 各所管課においても、個別の行政計画を策定する際にアンケート調査なども行っているため、ご意見があったことをお伝えする。

委員 3ページの愛着と誇りの項目について、平成27年度は40%切っていたが、今回は50%以上が誇れると回答している。これは、行政や各団体の取組が評価され、環境、治安、医療、福祉・介護について安心できるということである。愛着も重要であるが、誇れるというのは区にとって重要な数値だと感じた。

会長 愛着と比較して、誇りは回答しにくいかもしれないが、この結果が出

ているということは、おっしゃるとおりなのだと思う。

この資料は、速報であるが、この傾向に大きな変化はないと思う。我々も参考に拝見すると同時に、各部署においても、他区の傾向を踏まえ、活かしていただくことが一番重要であると思う。

委員 このようなアンケートの設問で、住みやすい、住み続けたい理由だけでなく、区内にこんなところがあったら良いなど、ネガティブな点を挙げてもらうことはできるのか。

政策企画課長 調査項目については、各行政計画の指標となっているところもあり、各所管課と調整しながら設定している。区のどこが良くないと感じるかという設問を作り、次の施策展開等を考えていく可能性も考えられるところであり、できない理由はない。

委員 そういった意見を直接拾った方が、より具体的に考えられると思う。また、区の住み心地、どの程度住みやすいかという項目は、質問が曖昧に感じる。住み続けたい理由と重複する部分もあるが、もう少し深掘りして質問してもいいと感じた。

委員 新たな基本構想を策定する中で、新たな10年の基本計画もつくっている。それに合わせて区民意識意向調査を実施したものである。設問のあり方含め、新たな計画に則り、ご意見を参考に実施していければと思う。

会長 その他いかがか。  
(意見なし)

それでは、いただいたご意見は、事務局を通して各所管課に伝えてもらうこととし、今後の基本計画の策定や施策・事務事業の検討などに活かしていただきたい。

委員のみなさまにおかれては、区民意識意向調査の結果を踏まえて、我々の答申で修正が必要な部分があれば、ご意見いただきたい。

## 2 多様な区民参画による意見聴取等の結果について

(政策企画課長から資料3-1～3-4について説明)

会長 資料3-1が初めての試みである子どもワークショップ、資料3-2が子どもアンケート、資料3-3がインターンシップ参加者を対象とした大学生ワークショップ、そして、資料3-4が2種類のモニターに対するアンケートである。ご意見があれば伺う。

委員 これについて、高校生と中学生の息子が見たところ、高校生が手薄になっているという意見が出た。子どもアンケートは区立の小中学校を区が抽出して実施することができる。一方、高校は、区外の学校に通っている人も多く、意見を聞くのが難しいと思うが、16歳から18歳の意見

は重要だと思う。区外の学校では、板橋区の認知度が低く、自信をもって紹介できる区であってほしいが、意見を言う機会がないと残念がっていた。

大学生ワークショップは、とても良いことが書かれているが、公務員の仕事に興味があるインターンシップの参加者を対象とすると、模範解答しか出ないのではないか。区内在住の大学生の声も広く聴けるワークショップであってほしい。

資料3-3の5ページの景観についての意見は、生の声だと感じた。都市の主観指標が低いが、議員のポスターが決められた枠でないところにも貼られていたり、中途半端に剥がされていたりする。区民みんなでまちを綺麗にしていくことも大事だと思った。

会長 事務局は、ご意見を所管課にお伝えいただきたい。

ワークショップやアンケートについては、多様な方々の意見を広く拾うことが重要であり、対象や規模を今後どうするのが望ましいかについては、精査し、工夫する必要がある。地元の企業の人や、大企業の人たちを対象とすることで全く異なる視点も出てくると思う。区民参加の第一歩として非常に面白い試みであるので、区でもいろいろと勉強しながら、これを活かし、今後の課題としていただきたい。

委員 子どもワークショップについて、やはり高校生が少なく、もったいないと感じた。今年度も3回実施するとのことだが、どのように参加者を募集しているか教えていただきたい。

子どもアンケートの結果について、対象となる学校にばらつきがある。例えば、区内を4つに分け、そこから小学校2校、中学校1校ずつを選ぶなども必要なのでは。舟渡にあるから、という回答もあったが、いろいろな地域の意見を聞きたい。

大学生のワークショップは、4ページに空き家率が56%とあるが、正確な数値か。20%超えない程度の認識であった。取組自体は、とても興味深く、続けられるといいと思う。

モニターアンケートは、区民意識意向調査と年代の分け方が異なるが、同じように区切っただけだとわかりやすい。モニターアンケートは、基本構想の中間答申に対して質問をつくっているのがわかるが、区民意識調査の方と重複する設問と全く異なる設問がある。同じような時期に実施するのであれば、区民意識意向調査とモニターアンケートを同じような設問で実施した方が、より多くの方々の意識がわかると感じた。また、モニターアンケートには自由記述欄がある。区民意識意向調査にもあると面白い。

会長 モニターアンケートについては、複数のアンケートを比較しながら検

政策企画課長

討するという意味では、おっしゃるとおりである。今後、アンケートを実施する際にはご指摘があった視点も含めて、見直していければと思う。

それ以外については、事務局から説明をお願いする。

大学生ワークショップについては、実施時期などを考慮し、インターンに来る方々にご協力をいただいた。幅広くご意見をいただくため、区内の大学との日頃からのネットワークを使い、Webアンケート調査を実施するなど、改善の余地があると考えている。

子どもアンケートに関しても、広く抽出していくための多様な工夫の仕方があると思っている。基本構想の中間答申でも、子どもだけではなく若者を明確に位置付けていただいたこともあるので、中高生、大学生、若者世代に、より多く意見をいただく仕組みについては、よりよいものができるよう努力したい。

委員

資料3-4の3ページ、区のブランドについてが、興味深い。

区民としてブランドに「なりうる」ものを高くしていくことが重要であり、左上に位置付けられるようになったら、右上に移動できるようにしていく。現状は、左下に多くの項目が集まっており、これからの状態であるので、右上の花火大会のような位置付けをめざし、まずは、左上の「共働き子育てしやすい」をブランドに「なっている」と認識してもらえるようにし、左下の項目を左上のブランドに「なりうる」にできるようにみんなで愛していけるといい。基本計画の中でどのポジションをそれぞれとっていくのかを考えるといいと思った。

会長

事実と異なる部分は、確認していただきたい。

具体的に検討できる施策案については、基本計画や施策、事務事業に活かしていただきたい。

委員

資料3-1～3-3を見ると、総合的に、緑や環境、遊ぶ場所、繋がる場所、買い物ができる場所についての意見が多く、区民意識意向調査でも、住み続けたい理由、移り住みたい理由として、緑や公園など自然環境、まちなみ景観が上位であり、リンクしていると感じた。

また、区外に通学する高校生や大学生は、区との関わりが必然的に薄れてしまい、同じ年代の区民同士の関わりもない現状であり、横と縦の繋がりを確保していくことが、区内在学の学生だけでなく、幅を広げていくことに繋がると感じた。

資料3-4のモニターアンケートでは、区のブランドの表では、左下に位置付けられる項目が多いが、先日、熱帯環境植物館に行ったところ、良い施設だと感じた。左下にある理由は、足を運ぶ人が少ないこともあると思う。他の施設も同様で、魅力が発信できてないことによって、足

を運ぶ人が少なくなり、その結果、魅力も薄れてしまうという負の連鎖が起きているのではないか。

花火大会などのイベント、ソフト面は、強い印象があるが、施設などのハード面が弱い。公共施設は、古く暗い印象が残っていると感ずるので、そこを払拭し、どんどんPRし、区外からも足を運んでもらえる施設をつくっていくことが重要で、そうすることで全体的にブランドを高めていくことができると思う。

河川敷などの緑豊かな自然についても、かわまちづくりなどに取り組みられているので、今ある資源うまく活かして、板橋というまちをつくり上げていくことが重要だと感ずる。

会長 区外の通学する学生は、区外での活動時間が長く、区との接点が薄れてしまうことは、これまであまり考慮できていなかったもので、今後いろいろなことを決めるときに留意することは、施策、事務事業において若者の意見を反映させ、若者に板橋に長く住んでもらい、活躍してもらうという視点でも重要であると感じた。

また、区内には、歴史的な背景も含め、様々な良い施設があるが、活用しきれていない現状である。例えば、美術館は、23区内にもっと大きく立派な美術館もある中で、どのように活用していくかも考えなければならぬ。少子高齢化が進む中、個人的には、他区に委ねる部分があっても良いと思う。今後、区が何に力を入れるかを判断することも必要になると思う。

委員 子どもの意見を聞くことを区を中心に据えていこうという流れの中で、このような取組を始められたことは良かったと思う。

資料3-4の4ページの基本構想審議会中間答申についての満足度と重要度というグラフで、産業が、重要度も満足度も低いことが気になっている。板橋は産業のまちであるのに、この結果をどのように受け止めるべきか。

政策企画課長 この満足度は、具体的に何に対してというところまで深掘りできていないため分析の難しいところがあるが、分布図は、ばらついているように見えるものの、平均満足度が6.2であり、産業の5.8は、突出して低いものではないと認識しており、重要度は、スポーツ・文化と同程度である。

新たな産業振興構想もつくり上げているところであるが、まだ区民の方々に知っていただけてない部分も多くあると感じており、日常生活で産業らしさが感じられるような展開を含めて、取組を進めていく必要があると感じている。

委員 この答申で、産業の重要度、満足度が低いと読んだ人が感じたのであ

	れば、産業について強化する必要があるのかが気になった。
会長	産業については、絵本のまちや光学の板橋、生成A Iも普及する中で過去の遺産をどのように活かしていけるかしっかりと議論できていると感じている。
委員	私も、産業が低いことが気になっていた。 東京都医工連携HUB機構というものがあるが、区内の中小企業と医療ニーズ・シーズのマッチング会を日本大学や帝京大学も実施している。板橋は、中小企業を中心とした産業が、大田区に次いで、23区の中で2位だと認識している。しっかり議論してきたが、9つの視点の中で、一番低いところにあるというのは、我々の議論が足りなかったのではないか。区内の中小企業が担っている産業は、非常に高いレベルにあるので、基本構想においては、強調すべきものを強調した方がいいのではないか。
会長	答申に具体的に加えるとするとどのような視点となるか。
委員	産業の満足度5.8、重要度7.2から、読み取るべきなのは、課題はあるが、重要であるというメッセージである。しかしながら、このグラフでは重要度も満足度も低いと受け取られかねない。重要度は微差である。誤解されないよう、グラフの書き方、縦軸横軸のスケールの取り方を工夫した方がいい。
委員	アンケートやワークショップの結果集計について、代表性を考慮する必要があるのは、これまでのご意見のとおりであるが、それに関連して、子どもアンケートの回答率が約80%ということで、5分の1の子どもの回答が得られていない。 通常、小・中学校でアンケートを行うと、回答率はどの程度か。 また、特別支援学級の子どもや、アンケートを期日までにさせない子どもたちの意見が反映されていない可能性があると感じた。今回の結果は、しっかり受け止め、アンケートに回答できない可能性のある子どもたちの意見も拾っていく努力が重要だと思う。
会長	おっしゃるとおりで、Webで回答できない人たちの声をどのように拾うかも含め、気を配らなければならない。
政策企画課長	今回のアンケートは、教育委員会で実施するアンケートに合わせて実施させていただいたもの。通常、回答率については、把握できていないので、確認させていただく。
委員	資料3-4の3ページの区のブランドについて、教育の板橋についても低い結果である。区内には、区立はもちろん、私立の教育機関も充実している。区外のブランド校と比較して、レベルが低く、人気がないと思われるのか。板橋の教育は素晴らしいと思うので、もっと自信を

もってPRする必要があると思う。

子どもアンケートや子どもワークショップの結果を見ると、よくまとまっていて、将来、区議会議員になってほしいと思うほどである。とても良い取組であるが、協力してくれた子どもたちに最後に冊子を渡すだけでなく、球技のできる公園やみんなが楽しく集まれる場所についての意見は、審議会が大人が真剣に検討した結果、こういった形になったとフィードバックする必要があると思う。区は、子どもたちの期待に何らかの形で応えてあげるべきだと感じた。

会長 ワークショップであれば、参加後の充実感があるかもしれないが、アンケートは、手応えやフィードバックがないものが多いので、ポイントを絞り込んで、目的を明確にすることと同時に、何らかの形でフィードバックをすることも気に留めておく必要がある。

また、区のブランドのグラフは数値を見ると、差は大きくないが、他と比較して、低いと判断しがちである。満足度に関しては、中間答申の内容についての満足度ではなく、現在の区取組について回答されている可能性もある。次回以降アンケートを実施するときは、何を尋ね、どういう答えが返ってきて、それをどう分析するかを慎重に見直す必要があると感じた。

委員 このグラフは、偏差値で示されており、気を付けて解釈しなければならない。左下にあるのは予備軍で、まだ芽が出てないが、いずれ大規模イベントの位置まで持って行こうというもので、大規模イベントの数値が外れ値なのである。誤解を招きかねないので、表現は工夫した方がいい。

会長 慎重に見なければならぬし、やはり、見せ方については工夫しなければならない。

委員 子どもアンケート等を見ると、全体的にスポーツや、ボールを使えるところを増やしてほしいという意見が多い。区外の人を引きつけるような施設があると良いが、オリンピック選手が住んでいたり、ナショナルトレーニングセンターが近くにあったりと、素材はある。知られていない部分と、本当に足りていない部分が入り混じっている。ブランディングとして、必ずしもスカイツリーのようなところがあればいいのではなく、理解を深め、板橋のよさをみんなが再認識し、文化やスポーツも意外とすごいところがあると自慢できるようになるといい。

福祉が強いので、大人目線で見ると満足度高いが、今回、子ども目線の意見をせっかくたくさん集めたので、まだ自分が子どもを産むビジョンが見えてない子どもたちにも伝わるように、施設の魅力が理解できる機会や、ボールが使える場を増やすと、連動して、区全体でもスポーツ

が区のブランドとなると思った。

会長 このアンケートやワークショップに子どもを巻き込んだことは、非常に重要である。こういったものに参加し、意見を言うことは、将来役立つという意味も含め、面白い取組である。子どもの意見を大事にすることは、重要なことであり、活用できるといい。

委員 教員の負担が大きいため、公立中学校のクラブ活動が実質なくなってしまった地域もある。外部委託し、選手を育てるとなると遠いものになってしまうと感じる。形だけで解決するのではなく、地域の問題も考慮するうえで、ここに出ている意見はとても重要である。

会長 区民の多方面によるデータは、理解が深まったが、他区や和光市、朝霞市から見た板橋という視点が抜けている。例えば治安が悪そうだと勝手なイメージを持たれている自治体にも、いいところがいっぱいあると思う。板橋が区外からどのように思われているのかという視点を盛り込むことによって、より精度の高いものとなると感じた。

会長 非常に重要な視点である。

委員 みなさまの意見は、基本計画に活かせるところは活かすこととし、アンケートやワークショップの対象も含めた実施の仕方、内容について課題が出てきたので、今後の参考として欲しい。

会長 この資料を踏まえて、我々の最終答申を直さないといけないかどうかというところが一番問題であるが、ご意見はあるか。

委員 答申の5ページから18ページまでは何回も議論し、起草委員の先生方のおかげもあり、きちんとしたものが仕上がっているが、3点気になった点がある。

まず、2ページ、諮問事項・趣旨の下から8行目にある「VUCA」は、ニュースでも話題になっており、10年後の板橋を述べる際に重要なワードだと思う。だからこそ自治体として、諮問事項に載せるには説明が短すぎると感じた。「先行きが不透明」は、「変化が激しく」に変えるとか、「積極果敢な変革へのチャレンジが必要であると考えております」をチャレンジだけではなく、「変化に強いしなやかな自治体」とか「変化への意思を持ち、前例にとらわれず、柔軟かつ果敢に挑戦し続けることが不可欠です」という言葉を盛り込むとか、「将来に夢と希望が持てる」については主語がわかりづらいので、「区民一人ひとり」という文言を加えると、わかりやすくなると思った。

19ページの基本構想を実現するための方針の、②の1つ目、「人材や財源などの経営資源の最適化や、AI・ビッグデータなどデジタル技術を活用した業務改革を推進していく必要があります」とあるが、最適化や危機管理というワードや、業務改革だけでなく業務効率化、災害対応

	<p>の強化などのワードも加えるとより良くなると思う。</p> <p>24 ページの予測困難な時代における区の取組においての2つ目、「変革に果敢に取り組んでいくことで、区民一人ひとりが」とあるが、「果敢に挑戦し、区民とともに、新たな価値を創造し続けることで」など、言葉を付け加えるとわかりやすくなると思うが、判断は、起草委員の先生と事務局にお任せしたい。</p>
会長	<p>表現、言葉についてご意見をいただいた。答申の内容はこれまで議論を重ねてきた内容であるので、検討はするが、どこまで活かせるか含め、任せていただきたい。</p>
会長代理	<p>2 ページは、諮問いただいた文章なので、我々が変更することはできない。他にいただいたご意見は、他のところに書いてあるかがポイントになると思う。同じ内容を何度も書くことは望ましくないので、他に書いてあればご容赦いただきたい。</p>
委員	<p>モニターアンケートの自由記述には、多様な意見があるが、「現行の基本構想を踏襲して良い基本構想だと感じました。基本理念・将来像を含めて、多様な区民、<a href="#">NPO・NPO</a>、地域団体などに対して検討されており良いと思います。」「9つのめざす姿が具体的に記されていて将来の姿を多面的に検討されているところが良いと感じました。」という意見は、嬉しく拝見した。</p>
会長	<p>先ほどご意見いただいた表現については、私と会長代理を中心に再検討するが、大きな修正点はないということによろしいか。お気付きの点があれば、事務局にご連絡いただきたい。</p>
	<p><b>3 その他</b></p>
会長 政策企画課長	<p>事務局から連絡事項があれば、願います。</p> <p>改めてお気付きの点があれば、10 日後の8月7日を目処にご連絡いただきたい。ご意見を集約し、次回の審議会で確認させていただくが、特段修正する必要がないと判断に至ることになれば、次回の審議会の開催について、会長とご相談し、改めてご連絡させていただく。</p>
会長	<p>次回、8月19日を予定しているが、開催の必要性の有無も含めて検討する。場合によっては、9月の審議会で全てまとめることになるかもしれない。本日の審議会は、以上とする。いろいろとご意見いただき、感謝申し上げます。</p>
	<p><b>閉会</b></p>
所管課	<p>政策経営部政策企画課総合計画係（電話3579-2013）</p>